

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 7 年度第 1 回弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会
開 催 年 月 日	令和 7 年 7 月 3 0 日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	1 4 時 0 0 分 から 1 5 時 0 0 分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館 3 階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	中村 直樹
出 席 者	委員長 中村 直樹 副委員長 東谷 康生 委員 松山 貴紀 委員 相馬 渉 委員 平野 敬之 委員 下田 肇 委員 小林 雅也 委員 小野 直子 委員 佐藤 誠 委員 渡部 郁子
欠 席 者	菊池 淳宏、佐藤 信隆
事 務 局 職 員 の 名 氏	福祉部長 秋田 美織 介護福祉課長 工藤 信康 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 伴 英憲 介護福祉課総括主査 長尾 厚子 介護福祉課社会福祉主事 田中 佑
会 議 の 議 題	（１）令和 6 年度弘前市認知症初期集中支援チーム活動報告 （２）弘前市の認知症施策の実施状況について
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料 1 弘前市附属機関設置条例（一部記載省略） 資料 2 弘前市認知症初期集中支援チーム検討委員会運営規則 資料 3 弘前市認知症初期集中支援推進事業実施要綱 資料 4 弘前市認知症初期集中支援チーム 業務の流れ 資料 5 令和 6 年度弘前市認知症初期集中支援チーム活動報告書 資料 6 令和 6 年度 弘前市の認知症施策の実施状況について 参考資料 1 利用者基本情報 参考資料 2 対象者把握チェック票 参考資料 3 障がい高齢者の日常生活自立度（寝たきり度） 参考資料 4 認知症高齢者の日常生活自立度 介護保険福祉ガイドブック 認知症ガイドブック（認知症ケアパス）

会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	1 開会 2 委嘱状交付 3 副市長挨拶 4 委員長・副委員長の選任 5 認知症初期集中支援チーム検討委員会の概要説明 6 案件 7 その他 8 閉会 1 開会 2 委嘱状交付 3 副市長挨拶 挨拶終了後、副市長退席 4 委員長・副委員長の選任 委員の互選により、指名推薦にて委員長は中村委員、副委員長は東谷委員が推薦され、異議なく承認された。 5 認知症初期集中支援チーム検討委員会の概要説明 ・事務局：資料１～４説明、参考資料１・２ 【質問・意見】 質問・意見なし 6 案件 （１）令和６年度弘前市認知症初期集中支援チーム活動報告 ・事務局：資料５説明、参考資料３・４ 【質問・意見】 （平野委員） 相談者は対象者の妻か。妻は困っていたか。 （事務局） 相談者は県内に住む娘。妻より娘が困って相談に至っている。 （平野委員） こうしたケースの対応はなかなか難しい。チーム員の支援で助かったなら良かったと思う。 （２）弘前市の認知症施策の実施状況について ・事務局：資料６説明
---	--

【質問・意見】

(松山委員)

数年前、石川のコンビニで行方不明者の顔写真付きの張り紙をみて驚いた。顔はぼやかされていたが、そういう時代になったのかと。その後市内の他のコンビニでは見かけないが、他に見かけないのは事案がないからか、家族の希望か。

(事務局)

令和5年度・令和6年度、行方不明事案は市で認知していない。コンビニへの張り紙については市の取り組みとして行っていない。

(松山委員)

コンビニへの張り紙もある意味では連携かなと思う。そのようなシステムが地域で構築されてきたのかと思い質問した。

(平野委員)

そういうやり方が適しているところもあれば、問題になるところもある。コミュニティによってはすでに顔見知りになっているところもあるし、地域によって様々と思う。

(事務局)

ただいまサポート事業では、事前登録時に行方不明事案発生時に情報提供する範囲について、登録者の意向を確認し対応している。

(東谷委員)

弘前市の認知症の方の数について教えてください。

(事務局)

厚生労働省が令和6年12月に発表した「認知症施策推進基本計画」の中で、軽度認知障害を含めた、全国の認知症高齢者数の推計が示されており、それによると本市においては約1万5千人と推計されます。若年性認知症の人の数については、約42人と推計しております。

(東谷委員)

早期診断・早期発見するための支援体制として認知症初期集中支援チームしかないのか。また、相談件数1件の捉え方について、相談体制にとりこぼしはないのか、関係機関と連携して対応できているのか。

(事務局)

早期診断・早期発見について、認知症初期集中支援推進事業では認知症初期集中支援チームが対応しているが、他の事業では地域包括支援センターや認知症地域支援推進員など、関

係機関や関係職種と連携し対応している。連携は広報も含め、早期発見や早期受診勧奨などの対応を行っているところ。

相談件数については、認知症の相談をすべてチームが担っているわけではなく、相談に至る過程において、地域包括支援センターや認知症疾患医療センターなど他の支援機関の対応があり、その上で支援困難なケースについて相談を受けチームが対応している状況。

(小林委員)

認知症サポーター養成講座はどのような広がりがあるのか。企業なのか、町内会なのか、学校なのか。

(事務局)

企業であれば新たな新人職員、町内会であれば民生委員や地域で活動されている方、学校であれば新学級に受講させたいなど、継続した講座の開催依頼がある。担当者の肌感覚では学校からの問い合わせが増えてきているようにも思う。地域包括支援センターの広報活動との相乗効果を感じている。

(平野委員)

(認知症サポーター養成講座について) 認知症の人と家族の会ではどうでしょうか。参加者に講座を開催しているか。

(東谷委員)

認知症の人と家族の会では初期の頃開催していた。その後地域包括支援センターなど、様々な場面や機会で開催していただいている。受講者が活躍する場面を実感し難いのが問題かと思う。

(平野委員)

以前、認知症の方へ高校生が寸劇から学んで声がけしたニュースがあったかと思う。

当院(弘前愛成会病院)で、介護者を対象に月1回「かだりたい」という会を開催している。認知症のご本人にも門戸を開いて広く広報しており、徐々に参加者が増えている。病院に相談すると認知症と診断されるのが怖いという方もいて、そういう人が相談できる場所やピックアップしていくことが重要と思う。認知症を怖がらないで欲しい、いろんな治療やケアがあり、軽減したり、改善できることに気づいてもらうことがすごく大事と感じる。

弘大の医学生が物忘れをサポートする端末システムを開発したり、学生が認知症に関するイベントを開催したり実際に関わろうとしてくれているのをみると頼もしい。認知症サポーターとは違う部分だが、認知症に対する興味関心の高まり

	を感じるので、そこに我々がどうサポートできるかが課題と感じている。 (相馬委員) ただいまサポート訓練について。市の計画はどうなっているか。市で企画し開催しているのか。 (事務局) 市では開催しておらず、地域包括支援センターに開催を依頼している。 (相馬委員) 以前ニュースになっていたと思う。地域包括支援センターへの働きかけや開催によって広くアピールになるのかなと思う。 (平野委員) 講話をすることがあるが、SNSなどで前宣伝したりしている。開催前に広報するといいと思う。 (中村委員長) ただいまサポート事業について。爪Qシールは反響が大きかったと感じている。登録者を増やすことに加えて、支え手となる市民へのアピールも大事。爪Qシールや市の取り組みについて知らない学生が多い。チラシを作って認知症サポーター養成講座の中で爪Qシールの紹介をしてもらえればと思う。 7 その他 ・事務局：介護保険福祉ガイドブック 認知症ガイドブック（認知症ケアパス）の変更箇所及び変更予定箇所について説明 8 閉会
その他必要事項	